

すみだ

区議会だより

2008.1.14

NO. 152

発行：墨田区議会事務局

130-8640墨田区吾妻橋一丁目23番20号 ☎5608-1111 代表

http://www.city.sumida.lg.jp/kugikai/



(墨田区蔵) 葛飾北斎 「新板浮繪三園牛御前両社之園」(大判錦絵一枚)
浮繪(遠近法を強調した絵)の手法で、三園神社と牛御前を一つの画面に描いています。
三園神社の鳥居は向島堤の下にあり、その頂だけが土手から覗くのが面白く、向島の桜とともに江戸名所の一つでした。

平成20年
迎春
年頭にあたって



墨田区議会議長
中村 光雄

新春を迎え、区民の皆様のご健勝とご多幸をお慶び申し上げますとともに、新成人の皆様にご心からお祝いを申し上げます。

昨年は、能登半島地震、新潟県中越沖地震と相次いだ自然の脅威を目の当たりにし、災害に強いまちづくりへの決意を新たにいたしました。一方、新タワーを起爆剤とした国際観光都市すみだの実現に向け、「墨田区観光振興プラン」の改訂や「墨田区観光まちづくり総合交通戦略」、「墨田区景観基本計画」など新しいまちづくりへの検討を進めました。

さて、迎えた平成20年は、将来にわたる基本計画の実現に必要な強固な財政基盤の確立のため、計画的な財政運営と不断の行財政改革を推進するとともに、安全・安心なまちづくりや皆様の切実な要望はもちろんのこと、元氣さや明るさと呼び込む夢のある施策の実現に力を注いでいきたいと考えております。

わたしたち区議会は、活発で開かれた議会運営に努め、本区が安心して暮らせ、また将来に夢と希望が持てる墨田区となるよう全力で取り組んでまいります。

本年が皆様にとって、健康で幸せが感じられる素敵な一年となりますよう、心より願っております。

墨田区議会は本紙上をもって新年のごあいさつとさせていただきます。
あわせて新成人の皆さまにお祝い申し上げます。

平成19年 第4回 定例会

墨田区議会は、平成19年第4回定例会を11月21日から12月7日までの17日間にわたって開きました。

21日の初日は、自由民主党、公明党、日本共産党の3人が会派を代表して、区長、教育長に対して代表質問を行いました。26日の本会議では、民主新しい風の1人が会派を代表して区長、教育長に対して代表質問を行い、1人の議員が区長、教育長に対して一般質問を行いました。一般質問終了後、全議員の共同提案による議員提出議案「法人住民税の税収の配分方法の見直しに反対する決議」が原案どおり決定されました。その後、平成18年度墨田区一般会計歳入歳出決算ほか3件の特別会計歳入歳出決算が認定され、区長提出議案8件及び請願1件・陳情4件がそれぞれ所管の常任委員会に付託されました。また、平成19年11月29日で任期満了となる墨田区選挙管理委員及び同補充員の選挙が行われました。

12月7日の本会議最終日は、区長から追加提出された墨田区監査委員選任の同意議案を含めた議案9件が原案どおり可決されたほか、「原爆症認定制度の抜本的改善に関する意見書」を含む議員提出議案3件が全会一致で可決されました。

代表質問

区政を問う！

地方分権及び都区のあり方検討委員会での区長の見解について問う



自由民主党
中山 仁

問 第28次地方制度調査会は昨年2月、現行の47都道府県を廃止し、地域ブロック単位に再編するなど道州制のあり方について答申を出した。区長は国が取り入れようとしている道州制について、どう考えているのか。

18年度に都区の財調協議で今後の都区のあり方について合意した。この合意に基づき、都区の財源配分問題は一定の決着をみたが、都から区への事務移管、23区の再編などについては既に都区のあり方検討委員会幹事会が開催されるな

ど、実質的な論議がスタートしたと聞いている。23区の区域再編議論に向かって、都区のあり方検討委員会幹事会の座長としての取扱い、また、自治体の長としての墨田区における今後の取組みについて率直な意見を伺う。

本区の財政状況は、かつての危機的状況を脱し、明るい展望が開けつつある状況となってきたが、今後は新タワーに関連する周辺施設整備をはじめとして、基本計画事業に掲げた主要な施設整備などさまざまな区民需要に的確に応えることが求められる。20年度予算は、どのような考え方で編成しようとしているのか。

答 新しい道州を設置することは将来の我が国の行政構造のあり方を方向付けるとともに、国民生活にも非常に大きな影響を及ぼすものである。従って、国民的な議論を行い、導入の是非を判断することが必要だと考えている。都区のあり方についての各区長の基本的な考えは、特別区はあくまでも基礎的自治体としての事務配分とそれを裏打ちする税財政制度を確立することが都区のあり方検討のねらいであり、区域の再編はその上で必要があれば都の考えを聞くこともやぶさかではないという考えが支配的なので、その方向で協議に臨んでいきたい。今後の取組みは、道州制や都区のあり方の協議の推移に十分留意しつつ、区が果たすべき役割と責任を果たしながら、住民サービスの向上につながる制度改革になるよう全力で取り組んでいく。

20年度の予算編成は、「新基本計画等の推進を図るため、協働を進めながらすみだらしさに満ちた施策や計画事業の着実な実現を図る」ことなどを基本方針としており、その上で具体的な施策については区政が直面している行政ニーズに適切に対応する。

●震災・防災対策について問う

問 東京都が発表した地域危険度測定調査結果において、本区の北部地域は木造家屋の倒壊危険度が大変高くなっており、耐震診断・耐震補強など危険度解消に向けた強い取組みが必要である。本区は狭あい道路が多く、現状を踏まえればそれぞれの場所及び道路実態により、可搬ポンプ車などの整備が必要と考える。また、災害時の避難行動を単独で行うことが困難な「災害時要援護者」への避難支援体制の現状と今後の促進策について伺う。

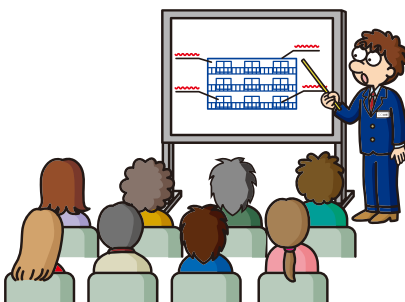


答 木造住宅の耐震改修助成制度を18年1月から実施している。今年度は無料耐震相談や家具の転倒防止器具設置助成などの制度の周知・掘り起こしを行っているが、更に区民が使いやすい耐震改修制度にしていきたい。

現在、消防団などに対して、資機材や補助金の支給などにより活動を支援しているが、引き続き消防署と連携しながら、地域の消火力の向上を図る。今後も「災害時要援護者サポート隊」の結成促進・活動支援に努めていく。

●墨田区に大学を誘致すべき

問 墨田区に大学が進出すると、区全体に対する期待感が膨らみ、大学の機能が地域社会に還元され、周辺の環境整備、また、学生、教員などの消費活動による経済の波及効果なども期待される。特に若い定住人口が増加し、町に勢いがつき、商業の活性化へと連動する。教育面においても子ども達の教科離れ対策や大学教員などの区立小中学校に対する教育連携にも大きなメリットが期待される。大学の誘致について、ぜひ強い取り組み姿勢を見せてほしい。



答 大学の誘致による地域の活性化については、学生や教員の流入による賑わい創出、消費活動による経済波及効果、区内教育機関との連携など、様々な効果が期待される。区としても、そのような観点から誘致に取り組んできた。大学を誘致したいとの考えに変わりはなく、今までも私立大学の設置についての窓口となっている私学協会へこちらの条件等を伝えている。こうした中で公募もひとつの方法であるが、それらを含めて総合的に検討したい。

問 京成曳舟駅高架事業に伴う既存不適格建築物の適切な救済措置を要望する。

答 居住者の意向を踏まえ、事業計画が円滑にまとまるよう引き続き積極的に支援していく。

決算特別委員会のもよう

平成18年度決算を認定

19年10月22日から11月1日まで延べ8日間にわたり、平成18年度墨田区一般会計、同国民健康保険特別会計、同老人保健医療特別会計、同介護保険特別会計の各歳入歳出決算を審査しました。



決算特別委員会のもよう（庁舎17階 第2委員会室）

平成18年度墨田区
各会計歳入歳出決算額

一般会計	
歳入	92,009,205,771円
歳出	87,903,023,457円
国民健康保険特別会計	
歳入	26,778,490,907円
歳出	25,977,096,696円
老人保健医療特別会計	
歳入	17,871,704,114円
歳出	17,601,509,378円
介護保険特別会計	
歳入	11,929,777,990円
歳出	11,110,951,196円

企画総務委員会のもよう

12月4日

議案 平成19年度墨田区一般会計補正予算…歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ12億5684万7000円を追加し、歳入歳出予算の総額を919億5696万5000円とするもの。主な内容は、東武伊勢崎線押上2号踏

切鉄道高架化事業検討経費、第二寺島小学校校舎等耐震改修事業に伴う仮校舎借上げ及び移転経費並びに仮校舎移転に伴う給食備品購入経費など。併せて校舎等耐震改修事業について、繰越明許費及び債務負担行為補正追加をするもの―可決すべきものと決定した。